

留学先国名：アメリカ合衆国

留学先校名：Gustavus Adolphus College

留学期間：2016年8月28日～2018年6月8日

留学生活は、机上の勉強だけでなく、様々な政治に関連するイベントに参加、また現地でボランティアをすることを通して様々な体験をすることができました。学生の約9割が白人というあまり多様性のない学校環境は、留学当初は大変な思いをしました。例えば、ほとんどの授業で、私一人だけが留学生、またアジア人ということが多かったです。

強い意見を持つアメリカの学生に圧倒されることもありましたが、女性の権利や歴史認識などの社会問題を日本人として西洋の国の方に共有することで、クラスメイトに自分の印象を残すことができました。

トランプ大統領が就任してからは、社会やメディアの雰囲気も、がらっと変わってしまい、一步学校の外に出ると嫌な思いをすることもありました。しかし、今となっては、辛い思い出ではなく、国際社会で生きる中、自分自身を強くする貴重な経験となりました。また同時に、自身が日本人であることを誇りに思い、自身の文化を言葉で伝えることの大切さを実感しました。留学生活の中で、素晴らしい日本文化を伝えること、そして日本の抱える問題を共有することで、日本人とはなにか？という考える機会を多く持つことができました。

留学の生活の一つ目の成果として、社会問題を批判的思考をもって分析することができたことです。学期ごとの授業は、政治学の勉強に限らず、ジェンダー学、経済学、環境学などリベラルアーツ大学ならではの、多様な視点から学べる機会となりました。そのような機会のおかげで、社会問題を一側面だけで見るのではなく、多種多様な原因があることを認識することができました。例えば、冬休みに訪れたエクアドルでは、ネオリベラル時代の急増した外国産業参入による、石油開発による環境破壊を学ぶ機会がありました。エクアドル政府の短期的な利益を目的にした政策に加え、アメリカなどの大国が他国の土地を利用し、労働搾取や自然搾取をする、ありとあらゆる問題が複雑に絡みあった結果が環境破壊を招いてしまいました。同時に、社会的に立場の弱い女性や子ども、先住民の方々の生活を脅かしてしまう経済・文化社会構造自体の見直しが必要であることを学びました。

二つ目の成果として、様々な人々との出会いを通し、次の人生のステップにつながる人間関係を構築することができたことです。留学で出会い、困難をともにした友人は一生の宝物です。また世界中に友人を持ち、その国の社会問題や文化を聞くことにより、本では知ることのできないストーリーを耳にすることができました。また、大学教授とのコミュニケーションを積極的にとることにより、これからも勉学を続けていきたい、そのように思えたことは留学の成果とも言えます。大学教授から大学院を勧められたこと、また推薦書を頂けたことは、将来自身が大学院進学を視野にいれている今、本当に心強いものとなりました。

留学を始める前に、開発に興味がありました。しかし開発は、経済利益が優先されることが多く、開発現場の人権や環境問題がないがしろにされてしまうということ、授業そして途上国での課外授業を通して学びました。そして、環境問題は、多くの場合、日本の原発再稼働問題や石油開発などに見るように、

残念ながら政治的な問題です。このような問題の根本を理解することができたことは、これから自身が社会人になるにあたり、働き方選択の際に大きな影響を受けました。留学を通し、人権また環境問題を取り扱う国際団体で、市民の意識完全そしてアドボカシーに関わることが、人々のマインドセットを変え、持続可能な経済社会を目指すこれからの社会に必要なだと信じています。現在、就職活動中ですが、そのような形で国際社会に働きかけたいという思いであります。

これから留学を目指す方には、健康第一とお伝えしたいです。留学中は、体力的、精神的に本当に辛いですし、楽しいことばかりではありません。自分の体を理解することは、学業とプライベートを両立させるために重要です。健康を優先し、いいコンディションでいれるように、自分の心や体と向き合うことをお勧めします。

次に、いろいろな学びの場所に足を運んでほしいです。私自身も、大統領就任式に参加する、現地の政治関連のイベントに参加し市民の生の声を聞く、途上国に行って先進国の経済政策による環境破壊を目撃する機会がありました。様々な学びの機会に足を運び、自身の言葉でストーリーを語れるようになってほしいです。また留学先で出会う友人、大学の教授、全ての出会いが自分を人間として成長させてくれます。一般的に、同じ国籍や人種の人々は、どの場所でも集団で行動しがちです。居心地の良い場所を選ぶのか、それともよりチャレンジができる環境に身を置くのは、自分自身で選択できます。より挑戦的な環境で、留学の機会をものにしてほしいと思います。